

## あおぞら診療所新松戸、訪問看護ステーションあおぞら 研修報告

寄付講座 緩和医療学 工藤悦子

9/27～29日の3日間、千葉県松戸市にある「あおぞら診療所新松戸」、「訪問看護ステーションあおぞら」へ研修に行ってきましたので、報告いたします。<http://www.aozora-clinic.org/>



(あおぞら診療所 HP より)

### **9/27 (火) : 訪問看護への同行**

診療所の朝のカンファレンスから参加させていただきました。夜間の電話対応の有無や前日の往診の患者さまの状況などの報告があり、その後患者さま宅へ状況確認のため電話連絡を行っていました。電話連絡終了後、患者さまの状況についてそれぞれのスタッフから報告があり、その日の往診の調整を行っていました。往診の調整では患者さまの状況と合わせ、患者さまのご自宅の場所も考慮し、できるだけスムーズに往診に行けるように調整されていました。

この日は、訪問看護ステーションあおぞらのスタッフの方とともに患者さまのお宅へ同行させていただきました。訪問先では、訪問看護の1時間のなかで必要な医療的ケアを行いながら、最近の体調や医療機関への受診状況、周辺環境についてなどを、患者さまやご家族へ伺っていました。この日の同行訪問で、直接的なケアとともに患者さまやご家族が在宅療養を少しでも無理なく続けられるような調整が、本当に大切だと再確認いたしました。

### **9/28 (水) : 午前／診療所カンファレンスへの参加 午後／往診に同行**

午前中かけて行われる、診療所のカンファレンスに参加しました。このカンファレンスでは、亡くなられた患者さまのことやグリーフケアで関わっているご遺族のこと、また診療所を利用している患者さまの近況、訪問リハビリを担当しているスタッフからの報告など、様々な情報が共有されていました。この日は、研修医が研修期間に最も印象的だった患者さまのことについて報告する日でもあり、研修医の先生から患者さまへの関わりの実際や感じたこと、考えたことなどの発表がありました。医学的なことはもちろんですが、研修医の先生が患者さまとの関わりを通して感じたこと、考えたことを率直に発表されていたのがとても印象的でした。在宅で暮らす方は、必ずしも病気が治る状況ではないこともあり、できることにも限りがあります。患者さまやご家族と関わるスタッフそれぞれに感じることで、考えることがあり、カンファレンスはその思いを率直に表現し、次へとつなげていける場になっているのではないかと感じました。

午後は、診療所医師の往診に同行させていただきました。この同行では、ケアマネージャー、訪問看護師、PT、OT、保健師など患者さまのケアに関係する職種とともに患者さまご家族が患者さま宅に集い、近況報告などについて話し合う場に参加させていただきました。在宅ケアでは、様々な職種が連携しながら患者さまやご家族への支援をしていますが、病院と違って一同が会することは難しい状況があります。このような場を持つことは、それぞれの職種がどのような支援を行っているのかを知ることができとても有効だと感じました。またこのとき患者さまやご家族は、今後どのように暮らしていきたいかという思いを話されていました。関係職種が全員とともに患者さまやご家族の思いを聞くことで、今後どの職種がどのように支援していけるかということが調整しやすくなるのではないかと感じました。

### **9/29 (木) : 訪問看護への同行**

1日目と違う患者さまへの訪問看護へ同行させていただきました。訪問看護は大人の患者さまだけではなく子どものところにも行きます。子どもの場合、子どもの持っている健康問題へのケアとともに、子どもの成長・発達の見方も踏まえながらのケアが重要になります。この日はご家族と今後の予防接種のスケジュール確認などをしていました。ご家族とともに子どもの身体的な状況に合わせた、成長・発達への支援の実際を学ぶことができました。

### **3日間を通しての学び**

病気をもちながら自宅で生活する患者さまやご家族、特に入院が必要な状況ではないが通院は必要で、その通院が困難な患者さまやご家族が、自宅で暮らしていくには様々なことに対処していかなければならないことを、改めて実感しました。通院のこと以外にも、生活そのもの、食事をどうするか、入浴はどうするか、買い物は・・・など、患者さまが日常生活を送る上で、様々な職種との連携が必要になり、その調整がとても大事になることを学びました。患者さまやご家族のQOLを考えると、介護しているご家族が休める時間、ご家族が自分の時間を持てるような支援の大切さも学ぶことができました。

また、患者さまやご家族が暮らす地域でどのようなサービスが受けられるのか、どのくらいの医療機関や訪問看護ステーションがあって、どのような受け入れ体制があるのか、人口の多い都市部なのか、過疎化地域なのかなど、地域の特性が、患者さまやご家族への支援を考えていく上ではとても重要だということを知りました。そして、患者さまやご家族への支援をとともに考え、実践していくには、患者さまやご家族を取り巻く環境を含め、患者さまやご家族のことを知ることが重要であり、それを知るためには直接的なケアを通して、また調整など間接的なケアを通して、コミュニケーションをとっていくことが大切だということを知りました。

今回お世話になったあおぞら診療所新松戸、訪問看護ステーションあおぞらのスタッフの方々、同行させていただいたときにお邪魔した患者さま、ご家族の方々に深く感謝申し上げます。